事例No.	2806
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	新宮山彦ぐるーぷ

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

世界遺産「大峯奥駈道」へ!修験道「南奥駈道」の再生と保全にかけた山岳奉仕プロジェクト

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



世界遺産「大峯奥駈道」へ!修験道「南奥駈道」の再生と保全にかけた山岳奉仕プロジェクト

新宮山彦ぐるーぷ（しんぐうやまびこ）

DATA

事　例　名：南奥駈道の守り人たち・新宮山彦ぐるーぷ
所　在　地：和歌山県新宮市下田1-2-4
連　絡　先：TEL0735-22-4558（FAX兼用）
　　E-mail shinguuyamabiko@gmail.com
ホームページ：shingu-yamabiko.com

取り組みの概要

新宮山彦ぐるーぷは、昭和49年に発足し「山を歩いて自然に親しみ、体験を通してモノを考えよう」という趣旨のもと、山岳奉仕活動に取り組み始めた。後に、「さびれた大峯南奥駈の道をよみがえらせ、日本古来の精神文明を見直す」ことを目的とした活動を展開する。荒廃した南奥駈道の刈拓きを、修験行者の千日回峰行になぞらえ、「千日刈峰行」と銘打ち、道の開拓に着手。これが、現在の奥駈道の維持管理活動や山小屋の維持管理の原点となっている。

評価された点

●熊野古道奥駈道の保守整備活動をボランティアで40年近く続けており、運営費はゼロで行えている点が素晴らしい。
●熊野古道という地域資産を掘り起こし、保守・整備の維持活動をすることにより、国内だけでなくインバウンド観光も今後さらに増えると思われる。
●単純に「凄い活動」であると感じた。こうした取り組みがあっての熊野古道の世界遺産登録なのだと思った。
●半世紀近くに渡り、熊野古道南奥駈道の保存と再生に向けた活動を地道に展開している点を評価。
●体力、時間、お金など、道の維持管理に非常に手間暇がかかるが、この道をずっと大切にしている点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　1974年～
・南奥駈道の保守・整備活動。

・「日本古来の精神文明を見直す」ことを目的に活動を展開。

1984年～

・千日刈峰行は、その後も現在に至るまで部分的な刈峰行を含めて第85次峰行となっている。

南奥駈道の保守・整備活動
・「千日刈峰行」と銘打ち、荒廃した道の開拓に着手。



1990年～

・新宮山彦ぐるーぷでは、南奥駈道にある行仙宿、持経宿、平治宿の3か所の山小屋と奥駈道の深仙宿避難小屋の管理など、すべてボランティアで行っている。

山小屋の建設、改築
・山小屋の建設、改修等。



2004年～

「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録
・南奥駈道が含まれる大峯奥駈道が世界遺産に登録される。





2005年～

・世界遺産を守るため、保全活動をさらに深化させる。

さまざまな表彰を受ける
・2004年シチズン・オブ・ザイヤー賞、H28第47回社会貢献者表彰、R04第24回秩父宮記念山岳賞、第13回あしたのなら表彰。



2018年～

これまでも、これからも
・会員の高齢化は深刻だが、山小屋の管理や道の整備は続けている。最近では山小屋が登山雑誌に紹介され登山者も増えた。
「山には出会いがある学びもある。少しでも多くの人に来てもらえれば」
（H30年・当時の川島代表の言葉より）

今後の展望

・後継者の養成。
・行方不明者の捜索。
・安全に留意した活動の継続。

受賞者のコメント

ぐるーぷ創設から50年、ある業者さんとの出会いから、大峯南奥駈道での千日刈峰行開始から40年と、大きな節目となる本年、はからずも「ふるさとづくり大賞」受賞の栄に浴し大変光栄に存じます。今日まで、行事回数も2,220回を超え、延べ27,000人の参加で南奥駈道を再興したことが、世界遺産登録につながったとの評価も頂きました。また、4カ所9棟の山小屋、お堂なども整備し、32年間を要して環境整備は完了し、今はその維持管理活動が主となっております。この間、多くの皆様からご支援ご協力を賜りました。課題もありますが、今後も「積善陰徳」を旨として、南大峯の黒子として地道に活動していく方針です。